

第44回 たいとうたきぎのう

能楽新舞台

令和6年7月31日(水)

開場:午後5時
開演:午後5時45分

※開演直前は大変混みますので、
時間に余裕をもってお越しください。

会場:金龍山浅草寺境内
(雨天時:台東区立浅草公会堂)

下町・浅草の夜に浮かぶ、幽玄な世界をお楽しみください。

入場料(全席指定) S席 5,000円
A席 4,000円
(未就学児入場不可)

入場券発売日 令和6年6月5日(水)午前9時より

入場券取り扱い
・カンフェティ

WEB <https://www.confetti-web.com/>

電話 0120-240-540 (平日午前10時~午後6時)

※ファミリーマートでの発券手続きが必要となり、手数料が発生いたします。

※電話購入では、座席選択はご利用できません。予めご了承ください。

※前売券が完売した場合は、当日券の販売はございません。

・台東区立浅草公会堂窓口(午前9時~午後5時)

共催:台東区

協賛:どせう 飯田屋/天麩羅 中清/株式会社 宮本卯之助商店

協力:金龍山浅草寺/浅草花やしき

<火入れ式> 木遣り・纏振り 第五區木遣り会

能	◆清	つね	観世	喜正
狂言	◆蝸	ぎゅう	山本泰太郎	
能	◆一角仙人	いっかくせん	坂 真太郎	

終演後、フォトセッションタイム

- ・上演中の写真撮影及び録音、録画は固くお断りいたします。
- ・屋外での開催となりますので、熱中症対策や虫刺され対策を各自でお願いいたします。
- ・今後の状況により、感染対策にご協力いただく場合がございます。
- ・都市部で実施する新能のため、公演中に周囲の音が聞こえる場合がございます。予めご了承ください。

写真:能「一角仙人」(撮影:芝田裕之)

主催・お問合わせ

〒110-0004 東京都台東区下谷 1-2-11
公益財団法人 台東区芸術文化財団

TEL 03-5828-7591
<https://www.taitogeibun.net>



第四十四回 台東薪能

令和六年七月三十一日(水) 午後五時四十五分開演
於・金龍山浅草寺境内(雨天時 浅草公会堂)

演目の解説
(火入れ式)

兎玉 信(能楽評論家)
木遣り・纏振り 第五區木遣り会

能 番組

清 經

ツレ(清経ノ妻) 石井 寛人
シテ(平清経) 観世 喜正
ワキ(淡津三郎) 館田 善博

大鼓 柿原 孝則
小鼓 鷗澤洋太郎 笛 一噌 隆之

狂 言

後見 中森健之介
遠藤 喜久

アト(主) 若松 隆
アト(太郎冠者) 山本凜太郎

能 (休憩)

一角仙人

ツレ(炭陀夫人) 佐久間二郎
子方(龍神) 坂 瞳子
子方(龍神) 角当 美織
シテ(一角仙人) 坂 真太郎
ワキ(官人) ワキツレ 宝生 常二
ワキツレ(興昇) 梅村 昌功
ワキツレ(興昇) 則久 英志

後見 角当 直隆
奥川 恒治 地謡
金子仁智翔 小島 英明
奥川 恒成 鈴木 啓吾
中森健之介 遠藤 喜久
桑田 貴志 永島 充

終演予定 午後八時五十分

附祝言

能「清経」

権勢を誇った平清盛が世を去ると、宗主宗盛をはじめ一門の運命は暗転。源頼朝を棟梁とする源氏の勢いに押された一門は、ついに拠点の都を追われ西国へ落ちていく。清盛の孫で、横笛の名手として聞かされた清経もその一人だった。一門の船団が豊前国(大分県)柳ヶ浦で停泊した夜、船先に立ち月を仰いだ清経は苦境に喘ぐ一門の前途を覚悟し、この世の名残に心を澄まして愛用の笛を吹き、愛誦する詩歌を朗々と歌い上げる。その心静かに経を読み念仏を唱えて入水した(豆ま物語 巻八)。

雅な若き武人清経の最期の様子を、夢幻能として美しく描いたのが『清経』です。家来の淡津三郎が船中に遺された形見の鬘髪を携え、都で夫の帰りを待つ妻のもとを訪れます。驚き、深く嘆いて心乱した妻は、悲しみが増すばかりだと泣いて鬘髪を突き返します。やがて、涙ながらに床に就く妻と、清経の霊が夢枕に現れて「云いに来た」と言葉をかけます。「夢なりともまみえるのは嬉しいけれど、約束が違う」と恨み、拗ねる妻。清経の霊は「私こそ恨み。心を込めて送った鬘髪を何故に返した」と言葉を返すと「すべてを語り聞かせる、今はもう恨みを忘れてほしい」と述べ、最期に至る一部始終を物語ります。この世の優さ、無常が色濃く漂って胸に迫ります。

狂言「蝸牛」

山本泰太郎
出羽国羽黒山(山形県鶴岡)の山伏が修験道の聖地である大峰山と葛城山(奈良県)での修行を終えて山を下り、国許への道を急いでいたが、あまりに朝早く旅立ったので眠くなり、一寝入りしようとして途中の藪に入った。と、そこへ太郎冠者が現れる。太郎冠者は、「長命の祖父がおお長命を保つようカタツムリを角を出す、大きいものは入ほどになる」などと教えられてやってきたのだ。実は藪の中を探すうち、横たわった何かの足に触れた。覗いて見れば頭が黒い。黒い黒く見えたのは先ほどの山伏の兜巾だったが、さてはカタツムリ、と思いついた。次々頓珍漢な問いをする太郎冠者。世にはもの知らずな奴いものだと呆れつつ、山伏は面白がつてカタツムリに成りますし、からかい始める。陸に棲み殻を持つ巻貝がカタツムリです。デンデンシ、マイマイなどとも異称されます。蝸牛もその一つで、蝸がカタツムリを表します。山伏が太郎冠者にも巻く呪文のような歌「でんでんむしむし」も、何となく懐かしく面白いです。

能「一角仙人」

坂 真太郎
カンジス川流域にあったという古代インド波羅奈国(ばらなこく)の山中で、仙人の精を飲んだ雌鹿から生まれた。このため、頭に一角があり、鹿の足を持つ。なんと奇異な出生をしたと伝えられる一角仙人。何事も自由自在にできる超人的な能力を具えたこの仙人が、美女の色香に感嘆されて転落する姿を描くのが「一角仙人」です。

雨の山道で足を滑らせ転んだことに腹を立てた一角仙人は、雨をつかさどる龍神を岩屋に封じ込めてしまった。ために波羅奈国では長く雨が降らず、村人たちは困窮する。秋のころ、事を愛した土の命を受け、官人は世にも稀な美女旋陀夫人(せんだぶにん)を伴い、山道に迷った旅人の体で仙境深く分け入る。そこで一角仙人の鹿があった。額から鹿の角が生える異様な姿を見せた仙人は、官人たちに鹿を招き入れると、ただの旅人ではあるまいかと素性を問いた。それを聞き流すように官人は酒を勧めた。否と断つて、仙境では松の葉を好み、苔を身に纏い、桂の露を嘗めて不老不死となると語る仙人。官人は志を受けてほしいとさらに勧め、こんどは夫人が的に立つ。仙人が盃を手にして酒宴となると、夫人は「面白や」と謡いつつ優雅に舞を舞う。生まれ初めて口にした酒に酔い、陶然とした面持ちで夫人の舞を見つめていた仙人は、やおら立ち上がった見様見真似で舞を舞い始める。

美女と野獣のような二人の、微妙にズレる相舞が、ハラハラドキドキの楽しい見ものです。やがて仙人が酔い伏すと、術が解けて封が割かれた岩屋から龍神が飛び出し、雨が降る展開となります。華やかで変化に富む舞台、大人のおとぎ話です。

浅草寺境内 座席図(全席指定)



【座席から見た舞台の見え方】

〈スタンド席から〉

※傾斜があり、舞台全体がよく見える席です。

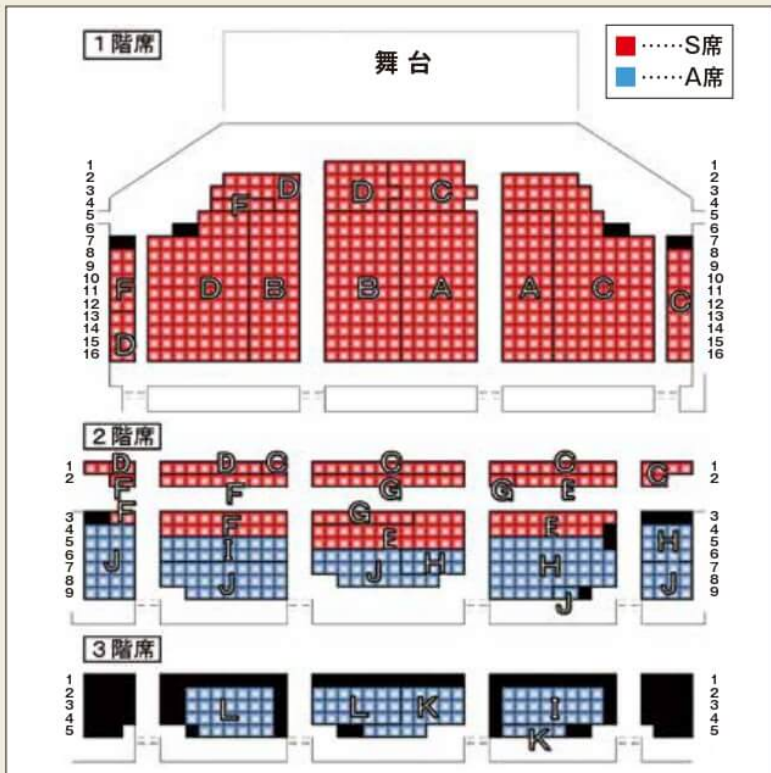


〈スタンド席以外から〉

※舞台から近い席です。座席に傾斜がございません。



雨天時会場:浅草公会堂 座席図(全席指定)



【雨天時の浅草公会堂座席について】

- S席の方は1階席・2階席前方、A席の方は2階席後方・3階席に振替となります。
- カンフェティで入場券をご購入された方
会場変更決定時に限り、午後3時30分より浅草公会堂にて、入場券に記載されたブロック・座席番号に対応した公会堂座席指定券を配布いたします。
※先着順の配布ではございませんのでご注意ください。
- カンフェティ以外で入場券をご購入された方
購入時に公会堂座席指定券をお付けしております。
雨天時は引き換えの必要はありません。
- 浅草寺境内の会場にて連番のお席でも、浅草公会堂では横並びにならない、あるいは通路を挟んだお席となる場合がございます。予めご了承ください。
- ※各会場の座席番号及び雨天時における座席詳細につきましては、台東区芸術文化財団ホームページ(<https://www.taitogeibun.net>)をご覧ください。
- 途中降雨による中止の場合でも、能「清経」終了後は払戻しいたしかねますので、予めご了承ください。

台東新能について

江戸幕府の庇護のもとにあった能楽は明治維新で大打撃を受けます。明治2年、徳川宗家とともに観世大夫も静岡に移りました。混乱のなか江戸に残って能楽を守った一人が初世梅若実です。慶應元年に麻橋の自宅に建てた小さな舞台が復興の拠点の一つになりました(のち篠山藩青山家の江戸中屋敷舞台を移築)。明治8年、上根岸にあった加賀前田家の屋敷に能舞台が作られました。後に染井に移築され長く親しまれます。現在は横浜能楽堂に移築されています。昭和11年、東京藝術大学に邦楽科が設置され能楽も教科の一つになりました。

能楽と台東区とのこうした深い縁があって台東新能は生まれました。新能は、本来は春の季語にもなっている神事です。現在は主として、野外の仮設舞台で夜間に篝火を焚いて行われる能の公演を指します。
*火入れ式、が大きな呼び物ですが、台東新能では木遣りで火が運ばれるのが他にはない特色です。台東区民が育てて来た新能を、末永くご支援ください。

(児玉 信)



「過去の公演の様子」撮影：駒井杜介



能『清経』

能楽師シテ方観世流 **観世 喜正**

昭和45年、三世・観世喜之の長男として東京に生まれる。2歳半にて初舞台。本拠地の東京神楽坂の矢来能楽堂を中心に、全国各地での公演に多数出演する他、普及活動や講演も多く行なう。慶應義塾大学法学部卒業。公益社団法人観世九草会理事長。公益社団法人能楽協会理事。一般社団法人 日本能楽会会員(重要無形文化財能楽総合保持者)、法政大学大学院、皇学館大学非常勤講師。著書「演目別に見る能装束(淡文社)、DVD「スピカろうそく能」(日本伝統文化振興財団)ほかの主演・作成・監修。



狂言『蝸牛』

能楽師狂言方大蔵流 **山本 泰太郎**

埼玉県狭山市出身。故・山本則直の長男。父及び山本次次郎(人間国宝)に師事。昭和51年10月、景景後援会にて狂言「勸業」の子猿で初舞台。昭和63年、国立能楽堂開場五周年記念にて「千歳」を披く。平成8年11月山本会別会追善公演にて「釣狐」、17年山本会別会にて「花子」を披く。平成22年度第65回文化庁芸術祭優秀賞受賞。平成23年5月、第15回日本伝統文化振興財団賞受賞。一般社団法人日本能楽会会員(重要無形文化財能楽総合保持者)、公益社団法人能楽協会会員。



能『一角仙人』

能楽師シテ方観世流 **坂 真太郎**

昭和47年、故・坂 真次郎の長男として東京都台東区に生まれる。三世・観世喜之師に師事。昭和50年に初舞台。東京藝術大学音楽学部邦楽科能楽専攻を卒業。在学中には「安宅賞」を受賞。平成15年に皇居・桃華楽堂で独鼓「菊慈童」を皇后陛下の御前にて奏演。浅草寺境内での「台東新能」には、昭和56年より出演。NHK大河ドラマに多数出演。現在、台東区アートアドバイザー、たいとう観光大使、一般社団法人 日本能楽会会員(重要無形文化財能楽総合保持者)、公益社団法人 能楽協会 東京支部常議員。台東区在住。

会場周辺案内図



金龍山浅草寺境内 台東区浅草2-3-1

アクセス

- 東武スカイツリーライン：浅草駅より徒歩 約5分
- 東京メトロ銀座線：浅草駅より徒歩 約5分
- つくばエクスプレス：浅草駅より徒歩 約10分
- 都営地下鉄浅草線：浅草駅A4出口より徒歩 約10分
- 都営バス：浅草雷門より徒歩 約5分
- 台東区循環バス北めぐりん(浅草回り)：二天門、浅草寺北より徒歩 約3分

- 会場入口は浅草寺境内観光バス駐車場側となります。
- 会場には駐車場がございません。お車は雷門地下駐車場等をご利用ください。(7時~23時 200円/30分)
- 駐輪場は「隅田公園自転車駐輪場」、「つくばエクスプレス浅草駅北自転車駐輪場」、「つくばエクスプレス浅草駅南自転車駐輪場」をご利用ください。

雨天の場合

- ・雨天の場合は**台東区立浅草公会堂(台東区浅草1-38-6)**にて行います。
- ・**カンフェティで入場券をご購入された方**
会場変更決定時に限り、午後3時30分より浅草公会堂にて、入場券に記載されたブロック・座席番号に対応した公会堂座席指定券配布をいたします。※先着順の配布ではございませんのでご注意ください。
- ・**カンフェティ以外で入場券をご購入された方**
購入時に公会堂座席指定券をお付けしております。雨天時は引き換えの必要はありません。
- ・途中降雨による中止の場合でも、能『清経』終了後は払戻しいたしかねますので、予めご了承ください。

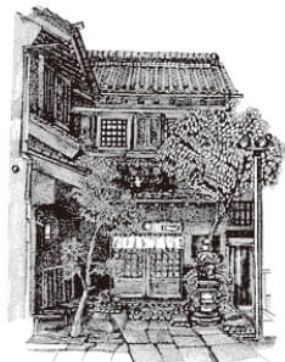
ご来場の皆様へのお願い

- ・未就学児のご入場はお断りいたします。
 - ・上演中の写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。
 - ・屋外での開催となりますので、水分補給等の熱中症対策や、虫よけスプレー・長袖の衣服の着用等の虫刺され対策を各自で行なっていただきますようお願いいたします。
 - ・会場では熱中症対策としての飲み物を除き、飲食はお控えください。
- ※詳細についてはホームページをご確認ください。



磨き込まれた籐敷に胡座をかいて“どぼう鍋”一刻文豪気分です。

〒111-0035 東京都台東区西浅草3-3-2 合羽橋本通り 電話：(03) 3843-0881
営業時間：午前11：30~午後9：00 (水曜日定休)



天麩羅中流
台東区浅草一ノ三九ノ一三
(浅草公会堂前)
電話(三八四)一〇四一五(代)
<http://www.nakasei.biz/>



囃子が誘う、
幽玄の世界

この国の佳き伝統とともに
宮本卯之助

株式会社 宮本卯之助商店 創業文久元年 太鼓・神輿・祭礼具 製造販売
www.miyamoto-unosuke.co.jp



日本最古の
ゆうえんち